

大泉北中学校・大泉第一小学校・大泉北小学校

中学校区の特徴

大泉北中グループでは、研究テーマを「主体的・対話的で深い学び」と「指導法や接続の工夫」に設定し、9教科で教材、指導法などについて議論を重ねている。

目指す15歳の姿

- ◇明るく、元気に、はつらつと
- ◇自分で考え行動する
- ◇夢や目標に向かって努力する

1 目指す15歳の姿の具現化に向けた取組

(1) 授業公開・教科研究

小学校教員は自らが指導する内容がどのように中学校の学習内容につながっているのかを理解すること、中学校教員は小学校における学習の程度を把握した上で各分野の指導をする必要がある。そのため、研究授業・協議会を行い、意見交換を通じ、同じ学力観、授業観を一貫したものとすることができるようになるため授業研究を行った。昨年度までの課題改善カリキュラムを継続して実践することで、小中共通の指導方針で指導した。

今年度は、3校で授業公開を行い、課題改善カリキュラムに基づき授業計画を立て、実践から得た成果と課題を確認し、教材、指導法などについて議論を重ねて授業改善を目指した。

(2) 児童・生徒の実態把握と手立ての共有

児童・生徒が小学校から中学校への円滑な接続と安定した学校生活を送ることができるようになるため、児童・生徒の実態を把握する必要がある。昨年度から引き続き、学習面・生活面の合言葉を「柱」とし、分科会ごとに目指す15歳の姿に向けて協議した。全3回の校区别協議会を通して、「課題の共有」「手立ての検討」「実践した成果の報告」を継続して行った。

◆「15歳の姿」

【各校の学習面の課題】

- ◇基礎的・基本的な学習内容の定着
 - ・語彙力が乏しい
 - ・計算力、数学的な考え方が低い
 - ・漢字が苦手、書く力が低い
- ◇学習への姿勢
 - ・根気強く学習に取り組む姿勢
 - ・自分から課題に取り組む意欲
 - ・集中して取り組む力
 - ・話をしっかり聞く姿勢
- ◇自分で考える力
- ◇自分の考えを表現する力
- ◇主体的に学ぶ姿勢

【各校の生活面の課題】

- ◇休み時間と授業との切り替え
- ◇基本的な生活習慣
 - ・忘れ物が多い
 - ・指示待ち傾向が強い
- ◇規範意識が低い
- ◇家庭学習の習慣化
- ◇児童・生徒の特性
 - ・自己判断ができない
 - ・周りに流されやすい
 - ・自己肯定感が低い
 - ・集団行動が苦手
 - ・児童間のトラブルが多い

大泉っ子の合言葉

学習の合言葉

基礎基本をしっかり身につけよう
進んで学習に取り組もう
家庭学習の習慣を身につけよう

生活の合言葉

元気なあいさつ、正しい言葉づかい
切り替えを大切に、やるときはやる
目と耳と心で話を聞こう
相手の気持ちを考えて行動しよう

◆協議会の様子



◆授業公開の様子



2 今年度の取組日程

第一回 6月16日 大北中	第二回 9月12日 大北小	第三回 10月18日 大一小
【授業公開】全学級・全教科公開，時間設定は公開学校が設定する。授業公開は5校時		
【協議内容】 ◎全体会：取組と方向性を確認 各回の協議内容確認 ◎分科会（各教科で編成） ・学力・体力「課題改善プログラム」 ・人間性「目指す15歳の姿」	【協議内容】 ◎分科会（各教科で編成） ・学力・体力「課題改善プログラム」 ・人間性「目指す15歳の姿」 ・接続「キャリアパスポート」「生活指導」 （※第三回「目指す15歳の姿」改善など追加あり） ◎全体会：各分科会報告と今後の課題など	
【クリエイター会議】校長・副校長・小中一貫クリエイター・必要応じた職層や主任，時間は15分程度		
<<分科会の構成>> 「国語・社会（総合）」「算数・数学・理科（生活）」「音楽・図工・美術」「体育・家庭・技術」「英語」		

3 今年度の成果と今後の方向性

小中学校の教員が、「目指す15歳の姿」の視点で互いの授業を参観し合い、活発な分科会協議会を通して、大泉北中学校グループの児童生徒の実態を把握することができた。そして授業や生活指導、生徒指導の課題や手立てを話し合い、共有することで、小中のつながりを意識し、その改善に向けて取り組むことができた。

今後も、「目指す15歳の姿」を小中一貫教育の基本方針とし、

「明るく、元気に、はつらつと」

「自分で考え行動する」

「夢や目標に向かって努力する」

を実現するための生活指導、進路指導、授業づくりに取り組むことができるよう、授業公開、分科会協議会を中心に校区別協議会を実施していく。